

誰もが「被災者」になる可能性がある。だからこそ支え合う。復興を目指して。

7月豪雨による球磨川の氾濫で60人を超える死者・行方不明者を出し、今もなお1400人以上が避難生活を続ける熊本県。災害に打ちのめされながらも、復興に向けて歩き出しています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大後としては初めての大規模災害。県外から来る多くのボランティアにより被災地での感染拡大につながる恐れがあるとして、

受入は県内在住者に限った前例のない対応。恐れていた複合災害による復旧の遅れが懸念されています。夏休みで学生ボランティアが増えることが予想されるが、その受付業務も人手が足りない状況。鹿児島県社協と調整を進めながら8月末には第5陣として、当協議会からも受付業務などの支援に向かう計画です。熊本地震や西日本豪雨災害では、錦江町でも災害復興ボランティアを募集。熊本県御船町や広島県呉市に町民一体となって向かいました。しかし、今回はコロナ禍での災害とい



錦江町社会福祉協議会 満留 満春 事務局長

う異例の事態。状況を見据え、受入体制が整った段階で迅速な支援ができるようにボランティアの事前登録を進めています。誰もが被災者になる可能性はあるのです。困っているとき、不安なときこそ支え合う。その想いこそが復興への原動力につながると信じています。

令和2年豪雨災害の義援金箱を設置

町内4カ所 錦江町役場本庁 / 役場田代支所 / 総合交流センター / 田代保健福祉センター

錦江町社会福祉協議会で義援金を受付中。寄せられた義援金は日本赤十字社を通じて全額被災地へ届けられます。

自治会からの義援金受付状況▼
36件 397,177円 (7/31現在)

宿原 / 山之口 / 鳥井戸 / 神川上 / 半下石 / 協和 / 神之浜1区 / 大久保 / 本町 / 旭町 / 鶴園 / 表木 / 橋ノ口 / 木原 / 上原 / 西中部 / 東中部 / 池野 / 猪鹿倉 / 郷ノ原 / 早瀬 / 栄町 / 桜原 / 富田 / 昇陽 / 柴立 / 原沢 / 上柴立 / 瀬戸口 / 折小野 / 京町 / 皆倉 / 中園 / 川北 / 神川城 / 麓

※掲載は受付順。義援金箱の金額も含んでいます

被災地に行けなくてもできることをできる限り 支援の輪



大根占小と馬場地区の「復興支援米」9年目

2011年に発生した東日本大震災の翌年から始まった、大根占小の「復興支援米」は今年で9年目。現在は熊本地震で被災した熊本県嘉島町へ毎年届けています。田植えや収穫作業は馬場地区産業部も協力。今年も10月に収穫し、手紙や写真を添えて届ける計画です。

「感染の不安」と「復興の遅れ」

2016年に発生した熊本地震、2018年に中国・近畿地方を襲った西日本豪雨災害では、錦江町でも災害派遣ボランティアを募集し、熊本県と広島県へ町民一体となって支援に向かいました。しかし今回は、新型コロナウイルスの影響で県内ボランティアに限定。感染拡大の不安と、人手不足による復興の遅れが不安視されています。



復興支援ボランティアの事前登録を受付中

現在、新型コロナウイルスの影響で県を超えてのボランティア支援ができません。現地の受入体制が整い次第、迅速に活動支援が行えるように「事前登録」を受け付けています。錦江町が復興支援ボランティアを募集する際には、事前登録者へ個別に案内させていただきます。

☎ 錦江町社会福祉協議会 ☎ 22-2000

「近所で、地域で支え合う」

自治会から避難所までは約4km。運転ができない一人暮らしのお年寄りも多いため、台風や大雨のときは、歩いて行ける公民館を避難所として開放しています。普段から声をかけ合う地域のつながりが大切。私



ちは、自然災害を防ぐことはできません。だからこそ支え合い、想定外の危機も乗り越えたいです。

厚ヶ瀬自治会長 厚ヶ瀬 博文 さん

また、新型コロナウイルスをきっかけに注目される「互近助」という考え方が、避難所に行くことが危険と判断した場合、近所の知人や親戚宅への避難も検討してください。安全な場所へ逃げることで支えが危惧を乗り越えます。今回は、新型コロナウイルスをきっかけに注目される「互近助」という考え方が、避難所に行くことが危険と判断した場合、近所の知人や親戚宅への避難も検討してください。安全な場所へ逃げることで支えが危惧を乗り越えます。

新型コロナウイルスと大規模災害

複合災害に備える

毎年のように大規模災害が発生する災害多発時代。新型コロナウイルスの収束も見えないなか、「コロナ」と「災害」という過去前例のない複合災害にどう対応し乗り越えるか。今、真剣に向き合うとき。

[避難所備品整備は新型コロナ感染対策として緊急経済対策で導入]



錦江町役場 総務課 木下 勝幸 主幹 (防災担当)

今回の7月豪雨災害で真っ先に危惧されたのが、コロナ禍での避難所運営。特に大規模災害発生時は、避難所に人が集まることによる「感染爆発」を不安視する意見も多く、自治体ごとに対策を進めている矢先の災害でした。避難所の多くは体育館など間仕切りやトイレも少ない施設。今回の豪雨災害では、押し寄せる避難者の検温や健康チェック、資材不足などさまざまな課題も浮き彫りになっています。今回、錦江町でも新型コロナウイルスと自然災害という「複合災害」への備えとして、避難所用備品を整備。コロナ禍での避難所運営に対応したマニュアルを一新しました。



屋内テント

避難所でプライバシー空間を確保できるテントを導入。周りとの距離を保ち、大人2人が寝れるサイズ。目隠しの天幕を設置することで着替えや授乳スペースとしても幅広く利用できる。

段ボールパーティション / ユニット畳

避難所における個室環境を実現することで、避難者同士の距離を確保。ユニット畳を組み合わせることで、快適性、断熱性も向上し、長期の避難にも対応できる。



コロナ禍での避難

避難所での新型コロナウイルス感染防止のため非接触型体温計やポータブルトイレ、屋内テントなどの避難所設備を導入



段ボールベッド

床に直接横たわるよりも体への負担やほこりを吸い込むリスクが少なく、新型コロナウイルスの感染対策にも有効と言われる段ボールベッド。軽いため収納や組み立ても簡単で、昼間はイスとしても利用できる。



ポータブルトイレ

ラップで包む新発想のポータブルトイレは、排泄するごとに水を使わずに臭いと汚れを完全密封します。常に衛生的で、水や電気が止まっても使用できる。

非接触型体温計

直接肌に触れることなく約1秒で体温を測定できる。皮膚への接触がないため、測定ごとに消毒する作業がなく感染リスクも少ない。

